

まりちゃんと あさがお

まりちゃんは、まいあさ

みずやりを しています。

きよねん おばあちゃんが

そだてた あさがおの たねを
もらって うえたのです。

「はやく おおきく なあれ。」

あさがおは、すこしずつ

おおきく なって いきました。

「わあい、あさがおの はなが

ふたつも さいたよう。」

まりちゃんは、だいじに そだてた あさがおが はじめて



さいたので、おおよろこびです。

おばあちゃんも、うれしそうに
いました。

「きれいに さいたねえ。

あさがおも、よろこんで いるね。」

「あっ、ほんとうだ。くちを

あけて、わらっている みたい。」

まりちゃんも、おばあちゃんも たのしそうです。

「ただいま。」

まりちゃんは、がっこうから かえると、すぐに あさがおを
みに いきました。



すると、あんなにきれいに
さいていた あさがおが、
しおれて ちいさく しぼんで
いました。

「ああ、あさがおが しぼんだ。
まりちゃんは、かなしくなって
おばあちゃんを よびました。

おばあちゃんは、
「だいじょうぶ。しんぱい ないよ。
はなは、すぐに しぼんで
しまうのよ。」

と、やさしく おしえて くれました。
「でもね、さいた あとには、やがて

あたらしい
いのちが



うまれるの。そして、つぎから

つぎに はなを さかせて

たくさん たねの あかちゃんが
できるの。そうして いのちは

つながって いくのよ。」

まりちゃんは、じいっと だまって
きいて いました。

そして、まりちゃんは もういちど

おばあちゃんの はなしを おもいだし、

こころの なかで

「いのちは つながって いくんだな。」
と、つぶやきました。

